

私のおすすめの本

橘 光伸 教授
(租税法)

- (1) 人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの 松尾豊著
角川 EPUB 選書 2015 年

その後の日本での AI ブームの先駆けとなった有名な本なので、読まれた方も多いと思う。過去の 2 度の AI ブームの歴史を概観しつつ、今回のブームの肝である「ディープラーニング」について、専門知識のない人にもわかるように説明している。この分野を勉強する際に初めに読むのに適した本だと思う。

著者の松尾氏はわが国の人工知能研究のフロントランナーで、本書出版後、NHK の AI の特番に出演するなど、引っ張りだこの状態である。私が公務員をしていた時には、財務省の省内セミナーの講師としても話を聴講させていただいた。

AI やディープラーニングは、産業分野でも大きな利用可能性をもった技術であり、それを発展させるには、企業のトップが決断して（社内に抵抗があっても）他社に先んじて資源を投入して利用を推進することが大事で、そうすれば日本にもチャンスはあるという話だったと思う。しかし、その後の日本の産業界の動きは敏速とは言い難く、早くも敗戦ムードが漂っているのは残念である。

日本のように資源のない国で、次の世代が食べていく飯のタネをどこから生み出していくのか。現下の有効求人倍率が上がったと言って胸を張るのもよいが、そういう新しい活力の源泉を生むような環境を作るのも、政・官・財界のリーダーの地位にある者たちの責務だと思うのだが。

- (2) わかったつもり 読解力が見つからない本当の原因 西林克彦著
光文社新書 2005 年

文章の読解に関する研究は、前世紀末頃から心理学の研究成果を取り入れることで、大きく進化してきたように思われる。著者は、学習心理学等の著書の多い研究者であるが、認知心理学の知見や教室での実証実験等の成果も踏まえ、刺激的でわかりやすい文章読解論を展開している。

わからない部分が見つからない安定状態が深い理解を阻害するので、この安定状態を克服することでより深い読解が可能となる、ということをも多くの文例を用いて説明している。

もう 10 年以上前に出版された本だが、これまでの現代国語教育に物足りなさを感じていた私としては、初めて読んだ時に大きな感銘を受け、それ以来、折に触れて紹介している。文章理解のための第一歩として、若い方に読んでもらいたい本である。

(3) 茨木のり子詩集
石垣りん詩集

岩波文庫 2014年
岩波文庫 2015年

仕事では、わかりやすさとか味わい深さとは対極にある税法の条文を読んでいるので、仕事を離れた時はよく詩集を読んでいる。日本語のリハビリが必要なのである。

詩の本は大きな書店にしかコーナーがなく、しかもすぐに絶版になってしまうので、オリジナルの詩集を読むには図書館のお世話になるしかない。そんな状況下で、近年、岩波文庫が戦後の主要な詩人の選詩集の発行を続けているのは喜ばしい。谷川俊太郎、茨木のり子、辻征夫、石垣りん、大岡信、山之口獏と錚錚たる名前が並ぶ。中でも、私が特に惹かれるのは茨木のり子と石垣りんの女性詩人二人である。

戦後、男女平等の世となり参政権も与えられたが、女性が社会的に活躍するには様々なガラスの天井があったに違いない。そうした中で、最も女性が活躍している分野の一つが文学、それも韻文の世界ではないかと思う。戦後の詩や短歌の最良のページは、女性によって綴られているように感じられる。

茨木と石垣は、育った環境も作風も対照的なのだが、代表作とされる「自分の感受性くらい」（茨木）とか「表札」（石垣）などを読むと、一種の男前なきっぷの良さ、凜とした姿勢という点は共通していて気持ちが良い。

女性はもちろん、草食系の男子諸君も読んで叱咤激励されてみてはいかがでしょうか。